

収穫後の枝しょう管理法が異なるウンシュウミカン施設栽培樹の果実肥大と品質特性

[要約] 夏季せん定から加温までの日数が長いと、加温後の着花は多いが果実肥大が劣る。果実品質には、収穫後の枝しょう管理の影響は見られない。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成6～9年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

ウンシュウミカンの施設栽培で、収穫後の枝しょう管理が異なる樹について、加温後の着花程度、果実肥大及び果実品質を調査し、母枝の違いと果実形質との関連を明らかにする。

せん定方法の概要

夏 季	せん定時期				夏芽の発生日				備 考
	1994	1995	1996	1997	1994	1995	1996	1997	
せん定	(月.日)				(月.日)				(加温時期)
有	8. 6	8. 9	8. 8	8. 9	8. 6	8.15	8.11	8.13	1994年,1995年 (1月10日加温)
有	9. 6	9. 5	9. 4	9. 6	9. 6	9. 6	9. 6	9. 6	
無	-	-	-	-	9. 6	9. 6	9. 6	9. 6	1996年,1997年 (1月 1日加温)
無	-	-	-	-	-	-	-	-	

[成果の内容・特徴]

- ① 8月上旬にせん定し、母枝の発芽から加温までの日数が140日以上の樹では、毎年着花数は多いが、花重、子房重はやや小さい。9月上旬にせん定し、母枝の発芽から加温までの日数が120日前後の場合は着花はやや不安定である(表1)。
- ② 果実の横径は、8月上旬にせん定した樹でやや小さい。果実肥大係数は、収穫後の枝しょう管理の違いによる差はみられない(表2)。
- ③ 糖度、酸含量、果肉色のカラーチャート値には、収穫後の枝しょう管理の影響はみられない(表3)。

[成果の活用面・留意点]

せん定時期が早く、着花が多い場合は果実の初期肥大が劣り、収穫時の果実も小さくなる恐れがあるので早期摘果に努める。

[具体的データ]

表1 せん定方法及び母枝の種類と着花程度

(1994~1997年)

せん定 時期	母枝	全節数当たり着花率				母枝当たり着花数			
		1994	1995	1996	1997	1994	1995	1996	1997
		(%)							
8月上旬	夏枝	70.7	109.2	83.6	75.0	6.1	7.6	7.1	6.5
9月上旬	夏枝	41.7	60.4	14.1	66.5	3.4	4.3	1.1	5.6
無せん定	夏枝	63.2	102.6	20.3	121.3	6.6	5.2	1.4	10.6
無せん定	春枝	134.0	98.4	16.0	163.4	9.1	6.3	1.0	13.6

表2 せん定方法及び母枝の種類と果実横径

(1994~1997年)

せん定 時期	母枝	満開後日数(日)												
		60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180
		(mm)												
8月上旬	夏枝	30.4	33.8	37.4	40.7	44.6	47.7	50.6	53.1	55.8	58.3	60.2	61.6	62.9
9月上旬	夏枝	32.3	36.1	39.6	43.6	47.5	50.8	53.8	56.5	58.7	61.0	62.8	64.3	65.7
無	夏枝	31.5	35.7	38.7	42.6	46.4	49.8	52.9	55.5	57.8	60.1	62.1	63.7	65.0
無	春枝	31.0	35.2	39.5	43.1	47.1	50.3	53.3	55.8	58.3	60.7	62.3	63.7	65.4

表3 せん定方法及び母枝の種類と果実品質

(1996, 1997年)

せん定 時期	収穫後の 水管理	母枝の 種類	果肉歩合		果肉色		糖度		酸含量	
			1996*	1997 [∧]	1996*	1997 [∧]	1996*	1997 [∧]	1996*	1997 [∧]
			(%)		(カラーチャート値)				(g/100ml)	
8月上旬	灌水	夏枝	81.2	78.6	8.6	9.3	12.2	12.1	1.05	1.09
9月上旬	灌水	夏枝	81.1	80.9	8.8	9.5	12.3	12.2	1.01	1.15
無	灌水	夏枝	79.9	80.0	8.6	9.5	11.8	12.4	0.95	0.94
無	節水	春枝	81.3	81.2	8.7	9.3	11.7	12.4	1.00	0.96

* 1996年 8月 2日調査

[∧] 1997年 8月 1日調査

[その他]

研究課題名：ハウスミカンの樹勢強化と休眠機構の解明

予算区分：県単

研究期間：平成9年度(平成6年~9年)

研究担当者：濱口壽幸, 中里一郎

発表論文等：平成6~9年度 長崎県果樹試験場業務報告